The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞高山善行・青木博史・福田嘉一郎〔編〕『日本語文法史研究1』
Author(s)	坂井, 美日
Citation	語文. 2013, 100-101, p. 161-162
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70926
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

紹　介

高山善行・青木博史・福田嘉一郎〔編〕『日本語文法史研究1』

坂　井　美　日

『日本語文法史研究』は、日本語文法史分野初となる継続誌である。今回取り扱うのは、その創刊号である。

刊行の背景

日本語の歴史的研究は、これまで、「国語学」という伝統分野において継承されてきた。その研究は、日本の有する豊富な文献資料と、それらを適切に扱う文献学的技術、そしてそれらをもとに構築された綿密なデータのもと、帰納的に論を構築するという実証的方法で進められてきた。その手堅い研究によって明らかにされてきた日本語の歴史は、日本語の研究だけでなく、言語そのものの歴史を明らかにする上でも重要なデータを提供しており、世界的に注目を集めている。今日では、国語学分野以外の研究者も日本古典文献を扱うようになっており、日本語史研究は、より開かれた研究分野へと変わりつつあるといえる。

そのような動きに伴い、国語学側も情報を発信する必要が出てきた。すなわち、日本古典文献の複雑な事情、これまでの成果、そして何より国語学側の最新の成果を、他分野の研究者と共有していく段階へと進みつつあるのである。創刊号前書きによれば、そのような時代の要請を受けて、日本語文法史研究の情報を発信することを主眼としたものが、この『日本語文法史研究』であるという。

構成

本書は基本的には論文集であり、創刊号には十本の論文が掲載されている。いずれも、国語学における日本語文法史研究の最新の成果である。

また、本書の特徴のとして、「テーマ解説」「文法史の名著」「文法史研究目録」が付されていることが挙げられる。

「テーマ解説」では、日本語文法史の特定のトピックについて、これまでの研究成果や今後の展望が解説される。チュートリアル的な意図があるとのことであるが、専門家が読んでも十分有益である。

「文法史の名著」というコーナーは、いわゆる書評であるが、名著と称される必読文献を扱う点が特徴である。国語学の基本文献を紹介し、今日の目から再評価をすることが目的であるという、まさに温故知新のコーナーである。

「文法史研究文献目録」は、直近二年間（創刊号のみ三年間）の、日本語文法史の著書・論文のリストである。これは、刊行が停止された『国語学年鑑』に代わるものという位置づけという。

いずれも、日本語文法史の研究情報を発信する上で、非常に有効である。

創刊号目次

『日本語文法史研究の刊行にあたって』

被覆形・情態言・形状言・状態性語基　小林智一

『万葉集』の～ムカについて　近藤要司
古代語の動作主標識をめぐって―助詞イと石垣法則―　竹内史郎
モノゾ文による推量表現の成立　勝又隆
中古語指示副詞「かく」の照応用法―「枕草子」「源氏物語」を資料として―　西田隆政
中古語の非接続叙法体系　福田嘉一郎
日本語の過去表現の構造とその変化　黒木邦彦
引用句派生の例示　岩田美穂
モダリティ形式「ラシイ」の成立　山本佐和子
クル型複合動詞の史的展開―歴史的観点から見た統語的複合動詞―　青木博史
【テーマ解説】助動詞の相互承接　小田勝
【文法史の名著】阪倉篤義著『日本語表現の流れ』　高山善行
日本語文法史研究文献目録2009-2011
索引
執筆者紹介
（ひつじ書房・二〇一二年十二月、二六六頁、四，〇〇〇円）

（さかい・みか　本学大学院博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）